

がん化学療法科 ニュースレター

ほほえみ 第10号



先日、北東北がんプロフェッショナル養成プランのシンポジウムがありました。その際に一緒にいたのが、樋野興夫先生です。ご高名な先生なので、勿論お名前は存じ上げておりましたし、以前に御講演も拝聴した記憶はあるのですが、会の終了後もいろいろとお話を伺う機会がありました。

2008年から、順天堂大学で「がん哲学外来」を始められ、これは世界で類を見ない試みです。がん哲学外来に関し、樋野先生ご自身は「偉大なるお節介」と謙遜されていますが、人生の意味を問う根源的なものと思っております。先行してお話が進んでいた処もあったのですが、何と今回盛岡の地で、

「新渡戸稲造記念 がん哲学外来」

を、お引き受けいただけることになりました。具体的には10月中の日程を予定しております。

新渡戸稲造先生について

岩手の生んだ偉人の一人、新渡戸稲造先生(以下敬称略)ですが、盛岡に来てからその足跡は勉強しないで来てしまいました。新渡戸稲造記念・がん哲学外来のスタートに際し、急遽、勉強しているところです。岩手県では新渡戸稲造を、学校で学ぶ機会はあるのでしょうか。その場合は、釈迦に説法で申し訳ありません。

新渡戸家は盛岡藩の勘定奉行の家系で、稲造は7人兄妹の末っ子なのです。江戸の末期の1862年9月1日、このニュースレター発行の149年前(来年は生誕150年!)、生まれは、盛岡の下の橋に近い、鷹匠小路26番戸となっています。新渡戸家は三本木の開墾事業に携わっており、明治天皇が開墾地に行幸されて、功績を称えて御下賜金を下されたということが記録されています。代々、開墾に関わる家系ということで、稲造は農学を志すのです。時代は明治初期でしたが、叔父の太田時敏の養子となり、稲造は9歳で上京して、築地外人英学校、共懐義塾から東京英語学校に進みます。しかし、母親にはその後、会うことができないという運命にありました。

稲造は小さいときから、祖父の見立てでは、誤れば悪党となり、上手くいけば相当の人物と言われていたらしく、東京に出してやろうということになったらしいです。彼の著作の中で、「今頃は赤い着物でも着て、市ヶ谷辺におるか巢鴨の監獄に入ってぶら付いておるべき人間」とか言っているのですが、良い意味で、男気なところ、潔さがあったのでしょうか。武士の家系で、気質がはっきりしていますから、自然、「武士道」という著作も血が通っているというか、真髓を伝えることになりますね。

しかし、この「武士道」という本は、元々英語で書かれたものですし、西洋の思想の源流にも遡り、東西の思想を統合した大変な教養溢れる本です。残念ながら、明治は遠くなったなどという気持ちは拭えませんが、だからこそ、今日読み返す必要があると思います。

参考図書： 永遠の青年 新渡戸稲造 内川永一郎著
自警録 新渡戸稲造著
武士道改版 新渡戸稲造著 矢内原忠雄訳



新渡戸稲造生誕の地

私の書棚から 「それでも人生にイエスという」

著者は「夜と霧」で有名な、V.E.フランクル氏です。ナチスの強制収容所での壮絶な体験が綴られた「夜と霧」とは趣の異なる講演集です。人間性が消去され、労働する機械としての存在でしかなかった、生きながら死んでいるような強制収容所の体験はここでは昇華されています。

I 生きる意味と価値 II 病を超えて III 人生にイエスという

の3つの章(講演)からなっていますが、全体と通じて「人生とは何か」が問われていると思います。

手短にお話すると、苦悩と死にも大きな意味がある、運命は人生そのものに属しており、正真正銘の運命に逃げずに耐え抜くことが、人間に出来る最高の行いであると位置づけられています。また、人生の問いのコペルニクスの転換という一文では、「私は人生にまだなにを期待できるか」を問うのではなく、「人生は私になにを期待しているか」を自分の心の中に問いかけるということを指摘しています

心が疲れた時に読まれるなら、生きることについて深く考えさせてくれ、力づけてくれる一冊であろうと思い、ご紹介します。



〇〇の秋

今年も猛暑だった盛岡の夏ですが、気持ちを切り替えて秋の楽しみを考えましょう。秋と言えば、食欲の秋ですかね。〇〇の秋と言えば、食欲、芸術、読書・・・といろいろありますが、秋というのは、何か心豊かにしてくれる季節であり、一方で冬を見越して備える季節でもあるのでしょうか。

以前に、芋の子会兼ジンギスカン大会を行ったことがあります、岩手だと二子里芋と知りました。ちょっと肌寒い野外で食べる芋の子汁は、身も心も温まります。

ジンギスカンは、遠野と帯広のジンギスカンを食べ比べて見たのですが、遠野は生ラムで、帯広は付けダレなので、同じジンギスカンでも趣は微妙に異なります。ジンギスカンだと野菜も美味しいですね。帯広ではシメには焼きうどんするようです。北海道では、普通の公園でプロパンガスボンベで、ジンギスカンをしている光景を見かけますが、ジンギスカンが広く市民権を得ているということでしょうか。



MEMO

9月のがん化学療法科の予定

9月2日	福田休診(加藤が代診します。)
9月5-9日	加藤休診(福田が代診します。)
9月9日	柴田教授外来
9月19日	敬老の日
9月23日	秋分の日
9月26-30日	福田休診(加藤が代診します。)
9月30日	柴田教授外来

